

史料群番号 71

史料群名	まつみやゆりこ たろうべえ 松宮百合子家（松宮太郎兵衛家）文書	旧所蔵者	（松宮百合子）
探訪時住所	和歌山県有田郡湯浅町		
現在の住所	和歌山県有田郡湯浅町		
探訪年月	昭和25（1950）年10月		
史料の年代	延宝2（1674）年～大正4（1915）年	史料の 総点数	（約350点）
年代の内訳	（近世 約20点/近代 約330点）	筆写稿本	あり
既刊行目録	「1951年6月 漁業制度資料目録 第3集 全国篇Ⅱ 日本常民文化研究所・水産庁資料整備委員会」		

収蔵にいたる経緯

探訪書類及び「漁業制度資料目録 第1集」には「松宮百合子家文書」とあって、目録も掲載されている。一方、水産資料館の整理で、本史料群に与えられた名称は「松宮太郎兵衛家文書」である。「漁業制度資料目録 第1集」に掲載されている史料名と、現在中央水産研究所に所蔵されている史料とを比較すると、ほぼ両者は一致するので、おそらく同一の史料群であろうと考えられる。ただし、再整理が終了していないので、詳細は不明である。

史料群の概要

有田郡湯浅町は、近世から明治29年まで湯浅村、その後湯浅町となった。近世後期、湯浅の町場は14町に分かれており、松宮家は御蔵町にあった。

湯浅は醤油の醸造地として知られ、漁業では関東・熊野・五島列島方面への出漁が有名である。松宮家は近世期以来、網漁を行う一方、網の製造販売を手がけていたとみえ、本史料群の大半は網やその材料の仕入れ先とのやり取りや網の届帳などの帳簿類などで、特にはまちを捕らえるための地引網を扱っていたようである。また、明治期の日常を記した「日誌」も17冊残されており、湯浅の漁業や網業を知る手がかりになろう。

